



北陸地方整備局 飯豊山系砂防事務所

きほう いいで

# 季報 飯豊

第14号

平成21年11月発行  
Since 2005 Winter



## 飯豊山系砂防スペシャルエンジニアとの管内現地調査を実施！

### 目次:

ISSEとの管内現地調査を実施しました	1
労働災害ゼロを目指して！	2
事業評価監視委員会開催	2
小国町総合防災訓練に出典	3
第16回大里峠越え交流開催	3
へり巡視を行いました	4
土石流模型実験紹介	4
編集後記	4

平成21年11月4日(水)、飯豊山系砂防スペシャルエンジニア(通称『ISSE』;Iida SABO Special Engineer)13名と、事務所職員7名による、管内事業箇所等の現地調査及び意見交換会が行われました。

飯豊山系砂防スペシャルエンジニア(ISSE)とは、飯豊山系砂防管内において土砂災害が発生した際に、自発的又は事務所の要請により、災害復旧に関する支援や災害の防止に努めようと、砂防事業に携わった経験豊富な人たちが集まった組織で、平成9年に設立されたものです。近年では、平成16年10月23日発生の新潟県中越地震の被災地域の緊急点検を実施するために構成された「土砂災害対策緊急支援チーム」の一員として活躍をしています。

山本工務課長進行のもと、佐藤事務所長からの開会の挨拶から始まり、飯豊山系砂防管内約170基の砂防施設の今年度における点検結果が事務所職員から報告されました。

その後、小国町内で現在土石流危険渓流対策として事業を実施中の入山第2号砂防



ISSE (Iida SABO Special Engineer)のみなさま

堰堤工事現場、及び水系対策として事業実施中の中ノ俣川砂防堰堤工事現場の状況を確認しました。

また、荒川水系玉川上流梅花皮沢の溪流荒廃状況について、既存砂防堰堤着手の頃の昔の溪流状況とあわせて意見をいただき、今後の事業を実施していく際の留意事項などの確かなアドバイスとなりました。

仕事を進めていく上で先人から教えを頂くことは非常にありがたいことであり、管内流域の状況に精通している砂防スペシャルエンジニアの皆様から頂いた貴重な意見をもとに、今後の現場施工・設計等に反映すべく、意見交換会を終えま



入山第2号砂防堰堤の現場にて地山やコンクリート打設状況を確認



若干の積雪の中、梅花皮沢の溪流荒廃状況を確認

## 労働災害ゼロを目指して！

### ～平成21年度建設労働災害防止大会を開催～

平成21年10月21日(水)、「おぐに総合開発センター」に於いて、飯豊山系砂防事務所工事安全対策協議会の「平成21年度建設労働災害防止大会」が開催されました。

この協議会の目的は、飯豊山系砂防事務所が発注する工事現場における労働災害の撲滅や保健衛生の向上など、安全で円滑な工事を行うための環境づくりに寄与することとしています。

大会では佐藤飯豊山系砂防事務所長からの挨拶の後、米沢労働基準監督署長からはヒューマンエラーによる災害をいかに防止す

るかについて、小国警察署長からは交通安全に関する講話をいただきました。

その後、安全対策取り組み状況について3件の工事現場からの報告があり、関川支部代表による「安全スローガン」の確認、小国支部代表による「安全宣言」が行われ、作業条件が厳しい砂防工事現場において、労働災害撲滅への意識をさらに高めながら労働災害防止に取り組むことを力強く宣言し閉会となりました。



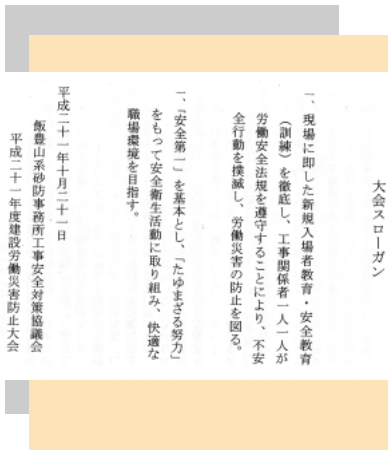
労働災害に関する講話をする米沢労働基準監督署長



交通安全に関する講話をする小国警察署長



小国支部代表による安全宣言



## 平成21年度 第2回 北陸地方整備局事業評価監視委員会開催 —飯豊山系砂防(胎内川・加治川流域)の「事業継続妥当」が了承されました—

平成21年10月5日(月)、国土交通省北陸地方整備局において、公共事業の効果や課題を審議する「事業評価監視委員会」が開催され、飯豊山系砂防事務所で事業を実施している胎内川・加治川流域について審議が行われました。



昭和42年羽越災害で加治川が破堤し多大な被害を受けた新発田市(昭和42年羽越災害時の写真)



現在の加治川下流域の様子。飯豊山系砂防の事業により下流域の豊かな暮らしを守る(飯豊連邦と加治川下流域の新発田市街地)

委員会では飯豊山系砂防事務所の佐藤事務所長から、胎内川・加治川流域砂防事業の直轄化の契機となった昭和53年6月豪雨、及び昭和42年羽越災害による流域の崩壊状況、事業の整備方針・進捗状況、費用対効果、今後の事業の進め方などが説明され、「事業継続妥当」が了承されました。

今後も地域の安全・安心を守るべく事業を進めて参ります。



委員会審議の様子(於:北陸地方整備局)

## 平成21年度小国町総合防災訓練に、飯豊山系砂防事務所からも参加しました！



「降雨体験機」により昭和42年羽越災害時の雨のすごさを体験。みんなで直立不動。

平成21年10月4日(日)、小国町の北部小中学校で行われた「小国町総合防災訓練」に、飯豊山系砂防事務所では防災広報活動として、降雨体験機、地震体験装置、土石流模型、防災広報パネルの展示・説明を行いました。

小国町総合防災訓練は、町民、消防団など約350名が参加して行われる年に一度の総合防災訓練です。

北陸地方整備局管内では、昨今の中越地震、中越沖地震、能登沖地震などを経験し、職員一同、地震時をはじめ自然災害発生時の初動体制、支援体制に対するノウハウを多くもっています。

このノウハウを生かし、地域の方々に地震や豪雨の模擬体験をしていただき、万が

一の大規模地震発生時における災害被害に繋がるアドバイスを行うなど防災広報を行いました。

はじめて体験する震度6クラスの揺れのすごさなど、みなさんに身をもって体験いただきました。

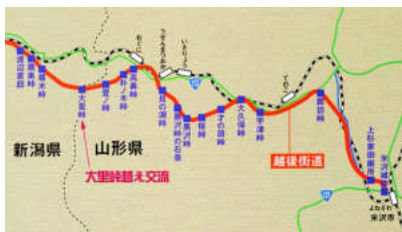


「地震体験装置」に乗り込みスタンバイ。揺れたらどうすればいいの？

## 第16回大里峠(おおりとうげ)越え交流開催

### —往事を偲ぶ—

山形県小国町と新潟県関川村の県境にある標高487mの「大里峠」。小国町と関川村の交流を深めるとともに、周辺の豊かな自然や歴史とふれあいながら、地域を守る国土交通省や森林管理署などの各種事業の重要性を知ってもらう目的で、平成6年から開催しているのが、旧米沢街道を歩いて大里峠を越える「大里峠越え交流」です。



16回目を数える今年度は10月18日(日)、秋も深まり紅葉で色づき始めた中、行われました。

当日は、時々小雨にもあたりましたが、約100人の参加者が小国の「手の倉口」から関川村までの約4kmを歩きました。峠では祠での祈念を行い、また散策後には芋煮が振る舞われるなど、みなさん楽しい秋の一日を過ごしました。

かつて暮らしを支える重要な道として、多くの人や物が行き来した旧米沢街道(越後街道)。

明治時代に入り、現在の国道113号の元になる道がつくられその役目を終えましたが、今も地域の誇り、観光資源として重要な役割を担っています。



色づきはじめた紅葉の中、散策を楽しむ



大里峠で全員集合 パチリ



秋も深まり枯葉散る中、平成21年10月28日(水)～30日(金)にかけ、管内市町村(小国町、関川村、胎内市、新発田市)の事業担当の方々、及び飯豊山系砂防事務所職員でヘリによる合同流域巡視を行いました。

飯豊山系砂防管内は、荒川・胎内川・加治川の3流域という広範囲で事業を実施していますが、山間地がほとんどで、災害時だけでなく日頃から流域状況等監視すべき箇所が多くあります。

3日間ともに好天の中、地上では普段確認できない上流域の崩壊状況等を目の当たりにするとともに、砂防施設が果たしている役割を上空から確認しました。

荒川水系の女川(関川村)上流で鋭意工事が進められている「女川第4号砂防堰堤」。狭隘な谷間での堰堤本体打設状況を上空から確認しました。



防災ヘリコプター「ほくりく号」。ほくりく号は新潟空港に配備されており、わずか30分足らずで飯豊砂防管内に到着します。



北陸地方整備局 飯豊山系砂防事務所

〒999-1363

山形県西置賜郡小国町大字小国小坂町3-48

TEL 0238 (62) 2566

FAX 0238 (62) 2613

<http://www.hrr.mlit.go.jp/iide/>

平成21年11月発行  
調査・品質確保課



Iide Sankei  
SABO

## 土砂災害と砂防施設の働きを模型で再現

～大人から子供まで砂防施設の働きがわかります～

飯豊山系砂防事務所では、小学校の総合学習の場や地域の催しの会場へ出向き、「土石流模型」を用いた実験により土石流の恐ろしさや砂防施設の働きについて皆様に説明する活動を行っています。

砂防堰堤や流路工が整備されている場合と、自然のままの場合の河道や町に土石流が発生したらどうなるでしょう・・・？

理論式ではなかなか説明できない砂防施設の働きが、模型により明らかになります！

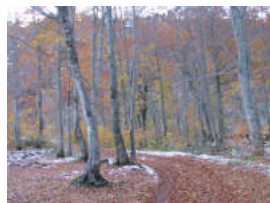
—土石流模型に関するお問い合わせは  
調査・品質確保課へ—



平成21年7月1日 関川村土沢小学校での土石流模型実験。「左の川は曲がっていて右の川はまっすぐ！」など、違いを次々に言い当てた後、大量の土砂を止めた砂防堰堤を見て静まりかえる一同。

—編集後記—

11月2日から3日にかけて、小国にもいよいよ雪が舞いました。澄んだ空気と静けさの中、真っ青な空に映える白い飯豊連峰のなだらかな頂は、東北のアルプスの名にふさわしく、その堂々たる姿を楽しませてくれます。



初冠雪の稜線に点々とつく動物たちのフィールド・サインを楽しく想像しながら編集後記といたします。

(o)

落葉を楽しむ余韻なく小雪が舞い降りたブナ林。(小国町温身平)



平成21年7月26日 小国町五味沢地区のイベント会場での土石流模型実験。

「何がおきるの？」と興味津々の子供達。